

法政大学江戸東京研究センター
ワークショップ

テクノロジーと東京

2019年3月30日(土)

10時から18時

●プログラム●

パネル1《交通》

[10時から12時]

司会:安孫子信 (法政大学)

陣内秀信(法政大学)

交通体系の変化と東京の都市構造の変容

岩佐明彦(法政大学)

効率の最大化によって変質する都市空間

鈴木勇一郎(立教大学)

社寺参詣と近代東京の電鉄

パネル2《建築》

[13時から15時]

司会:山本真鳥 (法政大学)

北山恒(法政大学)

メタボリズムと東京

高村雅彦(法政大学)

奪われる自由と創造される空間

岩井桃子(横浜国立大学)

まちに眠るテクノロジーの記憶を探る

パネル3《テクノロジー》

[15時10分から17時10分]

司会:安孫子信 (法政大学)

白石さや(岡崎女子大学/東京大学)

人間とテクノロジーのインタラクションをデザインする:シリコンバレーと東京

石井千春(法政大学)

江戸時代の科学技術と現代のロボット

田中和生(法政大学)

テクノロジーとしての文学言語

全体討論

[17時15分から18時]

●概要●

屋内・屋外、個人・共同体、運動・静止、仕事・余暇、生産・消費、健康・病気、ハード・ソフト、自然物・人工物など、どのように異なる範疇を想定しても、人間がモノ(モノとしての人間、モノとしての記号も含む)に関わる限り、そこには必ずテクノロジーの関与があります。そして、テクノロジーはそれとしてはユニバーサルなものです。それを生み出す仕方、あるいはそれを用いる仕方には、時と場所とで違いが生じてきます。こうして、東京にも、テクノロジーの、東京ならではの特徴的な存在の仕方が、ポジティブにもネガティブにも認められていくでしょう。経済性や効率のチャンピオンであるということだけでなく、東京がそれ以上に文化的にも魅力があったり、なかったりするのを陰で演出しているのも、何より、このテクノロジーではないかと考えます。このような観点から、テクノロジーと東京との関わりを、様々の領域に属する様々な問題に即して論じます。

○会場○

法政大学市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー25階
研究所会議室5

●問い合わせ先●

法政大学江戸東京研究センター事務室
〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3
九段校舎別館1F
Tel: 03-3264-9682
E-mail: edotokyo-jimu@ml.hosei.ac.jp

○詳細情報○

<https://edotokyo.hosei.ac.jp/>